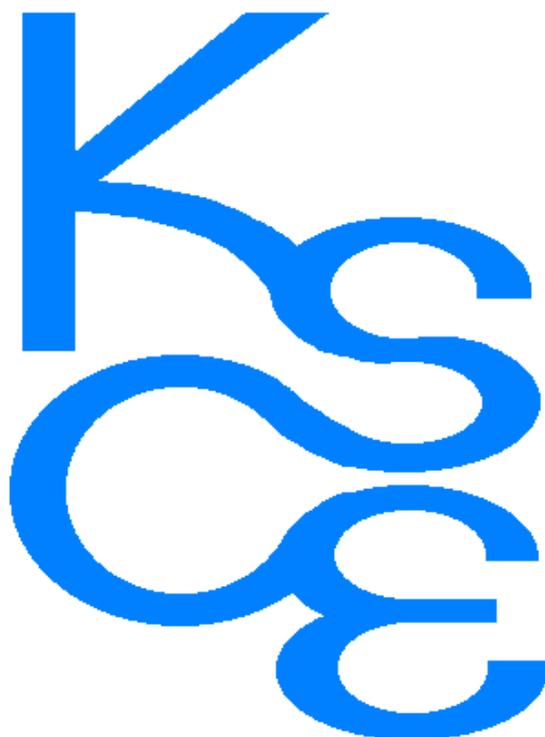


特定非営利活動法人  
京都教育サポートセンター  
総合ガイド



特定非営利活動法人 京都教育サポートセンターKSCE

(Kyoto Supporting Center of Education)

〒604-8005

京都市中京区三条通河原町東入恵比須町439早川ビル6F

TEL : 075-211-0750

FAX : 075-211-0750

MAIL : soudan@ksce.jp.org

Web : <http://ksce.jp.org/>

Facebook : <https://ja-jp.facebook.com/ksce.apollo>

## 新しい一歩のために

21世紀に入り、世界が激しく変動をする時代となってきました。テロに戦争・革命・金融危機・原油の値段高騰など閉塞した時代状況のもと、一昨年、東北地方を中心とする東日本大震災が発生し、そこから福島第一原発事故も起こり、世界を震撼させました。この現代において、いろいろな想定外のことが起こり得るわけで、不安を覚えることが増加する毎日であります。その中で、教育におきましても学校現場の先生方、その他各方面の御尽力にもかかわらず、学級崩壊は深刻化し、多くの不登校・中退者がいます。現在は推計で80万人の社会的ひきこもりの人が存在し、中小生では13万人弱の不登校がいるといわれています。

そんな状況下で、学校に通えなくて苦しい思いをしている子どもたち、また、かつて学校に通えず、そして今なおなかなか社会に適応できないでいる若者たちに、人との関わりやささまざまな経験を通して、人として生きていく勇氣と自信を培ってほしい、そんな思いから、特定非営利活動法人 京都教育サポートセンターの活動は始まりました。

ひとには一人ひとり、その個性・性分があります。まず、自分の将来への希望を見つけ、その希望へ向けての自分の性格に合った生き方を探り当て、自らの道を踏み出してくれれば……京都教育サポートセンターは、新たな歩み始めるための場として、若者たちのお役に立ちたいと願っています。

て、若者たちのお役に立ちたいと願っています。



# NPO 法人としての設立経緯と基本理念

## ○設立経緯

学校になじめなかった青少年に、人として生きていく勇気と自信を培ってほしい…。

憩いの場・集いの場・学びの場を提供することで、そのお手伝いをさせていただこう、と2002年3月から特定非営利活動法人として京都府の認可を受け、活動を始めました。現在活動13年目になります。

## ○定款上の目的

特定非営利活動法人 京都教育サポートセンター 定款 第2章 第3条

「この法人は、精神的に学校等に行くことが難しく、不登校・中退などに至ったまたは至る恐れのある（以下、不登校等という。）青少年及びそれに関わる個人、法人、その他団体等（以下、青少年等という。）に対し、社会の中で自分らしく生きる力を育むことを支援する他、青少年等に関わる人材の育成・活動の支援も行い、社会の創造に寄与することを目的とする。」

## [基本理念]

若者の社会的自立へのサポート

## [理念に向けた3原則]

元氣

思いやり

感謝の心

## 特定非営利活動法人

# 京都教育サポートセンターの歩み

1999年3月

前身個別教育予備校 GIP が発足

大検・大学受験予備校として活動

2002年3月

特定非営利活動法人京都教育サポートセンターとして活動を開始

2002年5月

随心院「命」生き！生き！PJ（プロジェクト）開始

2002年6月

現在の三条河原町早川ビルに移転

パレット河原町商店街振興組合に参加

毎月の商店街清掃活動に参加（現在も継続）

2003年1月

個別教育予備校 MES（夕方の個別指導塾）が発足

2003年4月

パーソナルアカデミーが発足（大阪池田で運営）

2004年度

大阪コミュニティ財団の助成により命PJ実施

2005年度

日本たばこ産業助成を受け

「Dream Journey Project」（DJ）を実施

2005年10月～3月

NPOホースフレンズのホースセラピー体験に参加

2006年度

トヨタ財団の助成を受けてDJ活動2年目を実施

2006年度

大阪コミュニティ財団の2度目の助成を受け命PJ実施

2006年4月

ハーブの会活動を開始

2008年度

前身時代を含め活動10年目に突入

2009年4月

DJに代わり、自立支援プログラム

「アポロ」開始

2009年6月

京都府市民生活部青少年課が2008年度より行っているひきこもり支援活動「チーム絆」の地域活動団体の認可を受け、活動を開始。

2009年度

京都府による「青少年の社会体験支援事業」の会計幹事団体として採択される。（2010年度・2011年度と3年担当）

2010年4月

「チーム絆」2年目の継続活動

2011年4月

「チーム絆」2011年度も継続し3年目の活動に入る。

2012年3月でチーム絆委託事業終了。

2011年9月

京都市による平成23年度NPO等民間団体の子ども・若者支援促進助成事業に採択される。（10月～2012年3月のアポロ事業対象）

2012年3月

NPOとして11年目の活動に入る。

2012年4月

お休みだった月曜日を利用して、発達障害の小学校低学年向けのPCを用いた「ことばのがくしゅう」（ソフト開発 NPO 法人発達障害療育センター 代表 京都大学霊長類研究所 認知学習分野教授 正高信男先生）を開始する。

2012年4月

「ことばのがくしゅう」に対し、ニッセイ財団による助成を受ける

2012年5月

京都市による平成24年度NPO等民間団体の子ども・若者支援促進助成事業に採択される。（2012年4月～2013年3月のアポロ事業対象）

2012年秋～13年3月

公益財団法人京都市ユースサービス協会主催「ユースワーカー養成講座」においてユースワーカー養成プログラムにおける実習生を受け入れ

2013年5月

京都市による平成25年度NPO等民間団体の子ども・若者支援促進助成事業に採択される。（2013年4月～2014年3月のアポロ事業対象）

2014年5月

京都市による平成26年度NPO等民間団体の子ども・若者支援促進助成事業に採択される。（2014年4月～2015年3月の集い場事業対象）

2014年12月

公益信託京都ライオンズクラブ地域社会奉仕活動助成基金による助成を受託



# 京都教育サポートセンターの主な活動

## 1. 学習サポート活動

前身の大検予備校時代から個別指導による学習サポートを実施しています。不登校・ひきこもりなどの経験者それぞれの学習状態を把握した上で、目標に向けたカリキュラムを作成し、実施します。基礎練成・生涯学習的なことから中学受験・高校受験・大学受験・高卒程度認定試験（高認、以前の大検に相当）までサポートいたします。



## 2. 自立支援プログラム「アポロ」

スタッフのサポートの下で、参加者がそれぞれしたいこと、気になっていることに対して、様々な体験・経験をし、それを元に各々が気づきを得て、将来に向けて歩みを進めるための自信へとつなげていくためのプログラムです。イベント実施と定期活動全般。（2011年度から13年度は京都市によるNPO等民間団体の若者支援事業として助成を受け、実施）



商店街定期清掃活動参加・アクセサリー制作・卓球・ボウリング・カラオケ・料理教室・年間通してのレクリエーションイベントなどを実施しています。



## 3. フリースペース提供

事務所内にフリースペースを設置しています。お家のような感じをコンセプトに温かい雰囲気でのんびりできる空間を目指し、利用生同士の間関係構築の練習の場であったり、ひきこもり状態からの新しい居場所として通ってくるための場を提供しています。



#### 4. 各種相談・保護者サポート活動

不登校・ひきこもりなどの状況の若者をサポートしていく上で、ご家族がしっかりと本人を支えていく事が大事と考えます。したがって本人の当所の利用の有無を問わず、本人の生活や状況に応じたご家族の対応に関する相談から、本人を支えるご家族自身に対するカウンセリング、セラピーの実施なども行うといった本人を支える周辺の方をサポートする活動も行っています。

#### 5. 家庭派遣・家庭教師活動

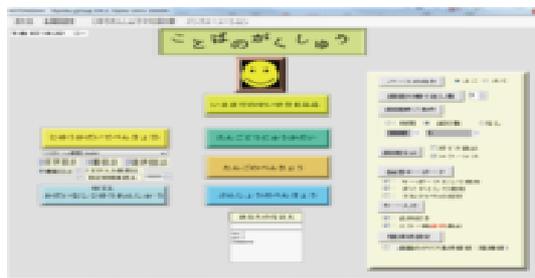
原則として京都教育サポートセンターは通い型のフリースクール・学習サポート活動を行っています。しかし、まだ通うことができる状況ではない若者に対して、先々通えるようになることを見据えながら、スタッフが家庭訪問をして本人対応だけでなく、ご家族相談などのサポートを行っております。その中で学習をする事を介在して同様のサポートを行う家庭教師も派遣しております。

#### 6. 京都府ひきこもり支援ネットワークへの参加

京都府府民生活部青少年課を中心として京都府下のフリースクール・親の会などが参加して構成する「京都府ひきこもり支援ネットワーク」に京都教育サポートセンターも参加して、シンポジウムや相談会などに参加しています。

#### 7. 発達障害の小学校低学年向け「ことばのがくしゅう」の運営

京都大学霊長類研究所 認知学習分野教授 正高信男先生が脳科学の知見に基づいて開発された PC 学習教材を中心に用いて言葉を「文字」「音声」「イメージ」の3つの部分で連動させて覚えていく学習プログラムを2012年4月より始めて月曜日午後（専用実施）・火曜日から金曜日の夕方（学習塾と平行運営）に実施しています。



#### 8. 機関紙の発行

当所の総合的な活動報告とイベント等実施予定・スタッフや生徒からの寄せられた話などを掲載した「K S C E 通信」（毎月1回）を発行しています。



## 9. その他 過去の実績（一部抜粋）

- 初期型ひきこもり支援「チーム絆」への参加  
2009年6月1日～2012年3月までより京都府府民生活部青少年課が運営する初期型ひきこもり支援「チーム絆」の京都市乙訓地域担当の地域版団体に認定（2009年度・1年更新・京都府下全部で6団体登録-2011年度）ひきこもりの若者（とその保護者）への無料相談（訪問・来訪・メールなど）活動を実施しました。
- 随心院の雑木林を整備する命生き生きプロジェクト実施（2002年3月～2006年3月）
- 京都文教大学主催の相談会への参加（06年・07年秋）
- 市民活動総合センター主催「ボランティア・市民活動フェスタ」へのブース展示参加（2008年11月30日・2009年12月20日）
- 京都府教育委員会・京都市教育委員会の就学相談員との情報交換（毎年）
- 滋賀県湖北・愛知県碧南市教育委員会から視察（05年・07年）
- カリフォルニア大デービス校の学生見学（08年）
- 奈良県くらし創造部青少年課・生涯学習課発行ガイドブックに参加
- 学びリンク・オクムラ書店発行各ガイドブックに掲載
- 青少年の社会参加応援委員会2008青少年の共同体験活動支援事業に参加（2008年度）
- 京都市ユースサービス協会主催地域若者サポーター養成講座の見学団体受託（2009年度・2010年度・2011年度）
- 青少年の社会参加応援委員会2009青少年の共同体験活動支援事業の庶務を担当（2009年度・2010年度・2011年度）
- 京都リビング社主催 「不登校生・高校中退者のための進路相談会」参加（2012年3月4日）
- 助成金実績
  - 大阪コミュニティ財団（東洋ゴム他）2005年度と2007年度
  - JT日本たばこ産業株式会社2006年度
  - トヨタ財団2007年度
  - 京都府 初期型ひきこもり訪問支援「チーム絆」地域推進事業2009年度から2011年度まで
  - 京都市によるNPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業 2011年度下半期と2012年度・2013年度（アポロ事業）・2014年度（集い場事業）
  - ニッセイ財団2012年度
  - 京都ライオンズクラブ地域社会奉仕活動助成2014年度



# 京都教育サポートセンターの概況

2015年2月10日現在

理事 3名

スタッフ 12名 (全員がボランティアスタッフ)

男性 5名 女性7名 内専門心理相談員 1名

利用生 年齢 10歳～33歳 15名在籍

サポート対象年齢

小学3年生～35歳くらいまでの不登校・学校中退・  
ひきこもりなどの若者

ことばのがくしゅう—小学生の発達関係

連携団体 パーソナルアカデミー (大阪府池田市)・個別教育  
予備校 MES (同居) シリウス学習塾 (広域家庭教師派遣・発  
達障害対応) 高石心理臨床活動舎 (兵庫県西宮市) NPO 法人  
発達障害療育センター (愛知県犬山市) 近畿大学附属福岡高等  
学校通信制 (広域通信制・福岡県飯塚市)



## 会員募集

私たち京都教育サポートセンターの趣旨「人として生きていくための勇気と自信」を青少年の心に育む我々の試みに、どうぞ仲間としてお力をお貸し下さい。

賛助会員 (個人) 入会金 0円 会費年額 12000円

賛助会員の方は会員期間 (1年) 毎月機関紙による報告をいたします。また希望者には機関紙にご芳名・広告の掲載をいたします。

寄付会員 (個人) 入会金 0円

手数料等除く1000円以上 金額は自由

寄付会員の方で1回3000円以上の寄付をしていただいた方には月に1回発行する機関紙により活動報告を半年間お送りいたします。利用生の方やそのご親族からの寄付会員は金額にかかわらず、機関紙による活動報告をさせていただきます。

また10,000円以上のご寄付の方には機関紙による報告と当所のものづくりかたゝで利用生達と作成した手作り品をお礼させていただきます。

○ゆうちょ銀行 口座番号 14440-35604871

(トクテイエイリカットウホウジンキョウトキョウイクサポ-トセンター)

○三井住友銀行 四条支店 口座番号 普通1666837

(トクテイエイリカットウホウジンキョウトキョウイクサポ-トセンター)

可能であれば事前に通知またはお申し出いただければ (ゆうちょの通信でも構いません) 幸いです。

